

あなたと博物館

松本市立博物館ニュース No.174 2011.5.1

「ひとそだて」と「まちづくり」

学都・松本の 屋台骨を 支えて105年

――年々歳々博物館ノ役割同ジカラズ。

博物館の役割は多彩なものがあります。今、博物館は松本という地域社会のなかで結集の原点として、文化の殿堂から市民フォーラムの場へと変わることが求められています。さらに、市民・利用者からそだてられ、ともに歩むことが、博物館の機能や職員の資質を活かし、松本市立博物館と附属施設全体が変わる、と私は思います。

――松本まるごと博物館。

博物館をめぐる内外の環境は最先端ではないかもしれませんが。しかし、職員は「ひとそだて」「まちづくり」に寄与し、学都・松本の屋台骨を支え、学都・松本の創造に向けて最前線で頑張ります。

応援、よろしくお願いします。

松本市立博物館
館長 窪田雅之



松本市に新しい「たから」が加わりました 平成23年3月28日、旧長野地方裁判所松本支部庁舎の庁舎に加え、正門およびレンガ塀と掲示板も含めて長野県史に指定されました。松本市歴史の里には他にいくつも昔の建物が移築されています。郷土の先人たちが残してくれた貴重な「たから」たち、外から眺めるだけでなく中にも入れます。皆さんも当館でちょっと昔を体感してみませんか。（解説は次ページ）

旧長野地方裁判所松本支部庁舎正面全景

もくじ	誌上博物館 ◇ 旧長野地方裁判所松本支部庁舎の正門と掲示板 … 2
	「手織りの美 古裂展」開催によせて …… 3
	博物館TOPICS ◇ ひとの動き …… 4
	ガイドコーナーはてんぼく …… 4

旧長野地方裁判所松本支部庁舎の正門と掲示板

はじめに

旧長野地方裁判所松本支部庁舎は松本市歴史の里に移築、展示保存されている建物の中で最も目立つ建物です。この庁舎は昭和 60（1985）年から県宝に指定されていましたが、このたび平成 23 年 3 月 28 日付けで建物正面に移築されている正門およびレンガ塀（東面のみ）と掲示板も含めた形で県宝に指定されました。今回はこの新たに加わった工作物について紹介をしたいと思います。

1 庁舎について

旧長野地方裁判所松本支部庁舎は、明治時代の終わりに、明治 41（1908）年に現在の松本城二の丸御殿跡に東向きに建てられました。正門や掲示板も同年に造られたものです。内部や外部が完全な形で残る、明治憲法下の和風建築裁判所としては国内唯一のものです。この建物は和風建築ですが、窓にはガラスが入り、机とイスで仕事をするように作られているなど、和洋折衷の姿をしています。なお、新築当時は堀の東側の一部が埋め立てられていたもので、門と掲示板は道路に面して建てられていました。

この建物が市民の保存運動によって現地に移築され、（財）司法博物館として開館したのは昭和 57 年です。その後平成 14（2002）年に松本市に移管され、現在の松本市歴史の里として開館、平成 16 年度から平成 18 年度にかけて建物の修理や整備を行い、平成 19 年 4 月 28 日にリニューアルオープンをして現在に至ります。

なお、建物や工作物の配置も当時の姿で移築されており、裁判所庁舎と一体となって明治期裁判所建築の典型的な姿をあらわしています。そのような理由で、今回建物本体だけでなく、付随する工作物も含めて県宝の指定を受けるはこびとなりました。



（製堂 倫明） （念記 碑建） 所判裁區本松
旧松本区裁判所給はがき（大正 13 年ころ）

2 今回指定になった工作物

[1] レンガ造の正門およびレンガ造の塀

正門は主門柱（高さ 3.25 m、一辺 0.77 m）と脇門柱（高さ 2.89 m、一辺 0.58 m）が各 2 基で構成されており、御影石（花崗岩）とレンガを組み合わせた構造です。また、通路部分は御影石敷となっています。左右の袖塀も同様の構造で、袖塀を含めた全体の間口は 11.46 m です。現在取り付けられている鉄扉と、裁判所前庭を囲むように造られている南北の塀は昭和の移築時に新規製作されたものです。



正門と袖塀

[2] 掲示板

木造間口 7.28 m、高さ 3.09 m。カラー鉄板板横葺きのものです。木材の風化具合や、古い釘跡が多数みられる事、古い写真の判定から当初のものままとみられているため、指定されました。



掲示板

おわりに

今回指定された門や掲示板は施設の入り口にあるため、何気なく通り過ぎてしまうかもしれません。これらも貴重な文化財ですので、ぜひ立ち止まって見ていただければと思います。また、当館では単に建物だけを保存するのではなく、それに付随するものもあわせて収集や保存・利活用をすすめていこうと考えています。

（松本市歴史の里・学芸員 / 小原 稔）

参考文献 『松本市歴史の里ガイドブック』松本市歴史の里（平成 19 年）
『松本市歴史の里整備事業報告書』松本市教育委員会（平成 20 年）

「手織りの美 古裂展」開催によせて

今年も松本市立博物館では4月29日から5月31日まで「工芸の五月」と協賛し、企画展を開催します。本展は「手織りの美 古裂展」というタイトルですが、手織りに限らず、当館の収蔵資料である藤原コレクションから幅広い種類の布地や織物を展示しています。この藤原コレクションは、当館の貴重な資料として折にふれてご紹介してきましたが、まとめて展示をするのは、前回の昭和40（1965）年8月の企画展以来45年ぶりとなります。今回はコレクションの全体像をできる限り展覧するもので、ここではコレクションの特徴と展示についてご紹介します。

まず、この藤原コレクションは、当時、南安曇郡穂高町在住の藤原彦太郎氏が明治以来、髪飾りと共に収集された個人コレクションが昭和33年3月に当館に寄贈されたことに始まります。このたび、45年前の資料整理の記録をもとに、あらためて茶箱7箱分のコレクションを見たところ、その膨大な量と多様性を再認識しました。

コレクションの内容は、資料点数にして8,984点にのぼり、主に裂帖に貼ってあるものが105冊と、裏打ちがしてある裂が約2,650点で構成されています。裂帖のうち11冊は、当時の東京国立博物館の山辺知行氏によって細かな鑑定がされています。また、藤原氏が裂に解体する以前に集めた衣服や着物の状態の布地も多くあります。さらには、藤原氏が裂帖に貼る際に切り落としたであろう細かな布地の切れ端も種類別にまとめて収蔵されていました。あくまで想像ですが、このような繊細な作業は無限の時間がかかったものと思われます。本展では、藤原氏の視点を通じて、来館者の皆さまに古裂の美しさと楽しさをご観覧いただけます。

展示の内容は、古裂の多様性を中心に据え、その経路や歴史もさることながら、単純に模様の美しさを楽しめるものとなっています。江戸期の絹や綿が中心ではありますが、皮・毛・和紙も含む豊富な素材の紹介にはじまり、平安時代から近世までの年代別に古裂を紹介し、その一方で、花・

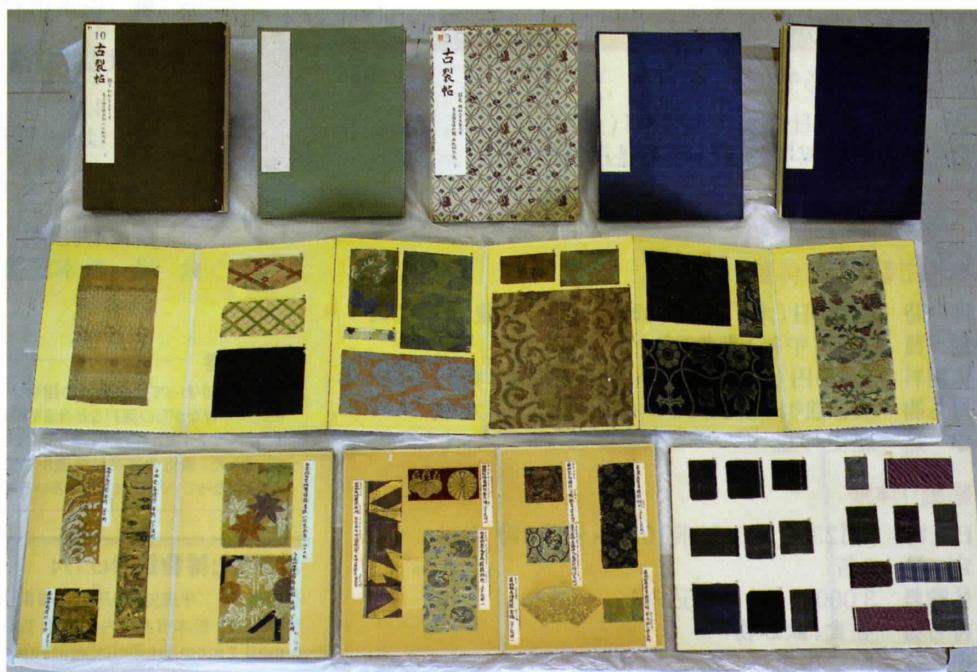


裏打ちした古裂の一部

鳥・虫や家紋などの文様をグループ別にまとめて展示しています。また、少し前の時代に思いをはせ、日本のみならず中国、韓国、インド、ヨーロッパなどから来た様々な布地を国別に展示したコーナーもあります。さらには衣服から布地になり、裂帖に貼られるまでを紹介し、藤原氏の作業工程を想像していただける展示もあります。

今後松本市立博物館では、このように貴重な古裂のコレクションを活用した企画を考えていきたいと考えています。それにはこのコレクションについての調査・研究とともに、まず市民の皆さまをはじめ、多くの方々に藤原コレクションの存在を知っていただくことが大切でしょう。「工芸の五月」の参加企画展として是非ご鑑賞ください。

（松本市立博物館 / 秋山かおり）



古裂帖の一部

ひとの動き

4月1日付で、次のように職員の転入・転出等がありました。()内は所属。

転入 よろしくお願ひします。

[課長補佐(事業担当係長)]

関沢 聡(寿台公民館→博物館)

[主査] 澤柳 秀利(里山辺出張所→山と自然博物館)

[主査] 朝倉 尚美(学校教育課→博物館)

[主事] 草間 厚伸(こども福祉課→考古博物館)

課内異動 改めてお願ひします。

[館長] 窪田 雅之(博物館課長補佐→博物館館長)

[事業担当係長] 竹内 靖長(主査・時計博物館→博物館事業担当係長)

[主査] 白井 邦彦(歴史の里→旧制高等学校記念館)

[主査] 小原 稔(山と自然博物館→歴史の里)

[主事] 一ノ瀬幸治(博物館→時計博物館)

[主事] 高山 直樹(旧制高等学校記念館→博物館)

[嘱託] 秋山かおり(博物館)

[嘱託] 松本 和子(松本民芸館)

退職・転出 お世話になりました。

[館長] 胡桃 孝好(退職)

[課長補佐] 川村 修

(博物館→中央図書館課長補佐(兼空港図書館長))

[主査] 関 政雄

(博物館→文化振興課文化振興担当係長)

[主事] 中沢 裕美(考古博物館→市民税課)

[嘱託] 西村 奈美(博物館→退職)

[嘱託] 小池 史子(松本民芸館→退職)



ガイドコーナー はんでんぼく

松本市立博物館から

☎0263-32-0133

特別コーナー展示 お江の時代—松本の女性たち—

会期 4月29日(金)～5月15日(日)まで

会場 松本市立博物館 1階展示室

時計博物館から

☎0263-36-0969

わがやのお宝時計展Ⅲ

会期 5月28日(土)～6月26日(日)

会場 時計博物館 企画展示室

入場料 無料(常設展は有料)

旧制高等学校記念館から

☎0263-35-6226

日独交流150周年記念「高校生のあこがれたドイツ」

会期 4月16日(土)～6月5日(日)

会場 旧制高等学校記念館ギャラリー

入場料 無料(常設展は有料)

旧開智学校から

☎0263-32-5725

学校にまつわるモノ展

会期 4月16日(土)～6月24日(金)

会場 旧開智学校 1階特別展示室

歴史の里から

☎0263-47-4515

高機で裂き織り体験

日時 6月16日(木) 午前10時～正午、午後1時～3時

定員 午前、午後とも各6名

体験料 1,000円(18cm×22cmの布を織ります)

持ち物 裂き織りにしてみたい布(お持ちでしたら)

申込 歴史の里へ

絹織り体験

日時 6月23日(木) 午前10時～午後3時

定員 3名

体験料 3,000円(材料費込み)

持ち物 昼食、飲み物

申込 歴史の里へ

考古博物館から

☎0263-86-4710

ミニ展示 墓制にみる松本市の弥生時代

会期 5月3日(火)～6月30日(木)

会場 考古博物館 2階展示室

重文馬場家住宅から

☎0263-85-5070

押絵雛・五月人形展

会期 3月26日(土)～6月5日(日)

会場 重文馬場家住宅 主屋

工芸の五月参加企画展のお知らせ

「工芸の五月」にふさわしい企画展を3館連携で開催します。
観覧料はいずれも通常観覧料と同じです。

手織りの美 古裂展

会期 4月29日(金)～5月31日(火)まで

会場 松本市立博物館(☎0263-32-0133)

中町と民芸“日常の美”展

会期 4月29日(金)～5月31日(火)まで

会場 はかり資料館(☎0263-36-1191)

職人技の美 木工展

会期 4月26日(火)～7月3日(日)まで

会場 松本民芸館(☎0263-33-1569)

あとがき

職場がかわってほぼ新築の建物から一転、明治時代の古い建物などを管理する事になりました。昔ながらの雨戸など今までの頑丈な建物と違い開け閉めもスムーズではありません。また、無理をすると壊れてしまうでしょう。思えば少し昔まで建具はこれくらい気を使って扱っていました。最近の建具は快適かつ丈夫なため、私は知らぬ間に身の回りの物の使い方が荒っぽくなっていたようです。いろいろ考えさせられた今年の春でした。(M.O)

あなたと博物館 No.174

発行年月日/平成23年5月1日 編集・発行/松本市立博物館

〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133 URL:http://www.matsu-haku.com

e-mail:mcmuse@city.matsumoto.nagano.jp

印刷 川越印刷株式会社